

令和 4 年 3 月 25 日

令和 3 年度 特別の教育課程の実施状況等について

北海道		
カリキュラム開発拠点校	管理機関名	設置者の別
北海学園札幌高等学校	学校法人 北海学園	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

カリキュラム 開発拠点校	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
北海学園札幌 高等学校	https://www.hgs.ed.jp/about/pdf/assessment.pdf	https://www.hgs.ed.jp/about/pdf/assessment_02.pdf

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページの URL を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法を適宜記入すること。

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

①6月25日(金):GLOBAL VILLAGE 2021, ②7月19日(月):カナダ・ブロック大学 橋本教授講義, ③7月22日(木):農業フィールドワーク, ④8月5日(木)~6日(金):GLOBAL SUMMER CAMP 2021(北海道大学大学院 山中教授講義,北海道大学大学院留学生によるワークショップ・札幌ニュージーランド協会によるラグビー・ヴィーガンクッキング・アイヌの生活をたどる・オークランド大学 カーン教授による地球環境保護に関する講義ほか), ⑤10月22日(金):ENGINEERING LAB~工学の世界探究1~, ⑥10月30日(土):食品ロスに関する講義と食ノートづくり, ⑦11月12日(金):ENGINEERING LAB~工学の世界探究2~, ⑧11月22日(月):農業をFUDAN(普段)よく食べるものから考察する, ⑨12月9日(木):北方領土について学ぶ, ⑩12月15日(水):WWL年間活動報告会 GLOBAL DAY

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性
 広大な北海道において連携校や協働機関を ICT も活用しながら拠点校及び連携校、協働機関が、SDGsに関する課題の設定とその解決に向けた探究活動を行い、過程及び成果を共有しあうことの必要性を強く感じた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から探究活動の方法という点では制限もあったが、多くのテーマにおいて継続的に探究活動を行うことができた。しかしながら、将来各連携校の蓄積してきた探究成果をより共有しつつ、新たな課題への挑戦も加えながら探究活動を継続していきたい。

(3) 特例の適用開始日

令和3年4月1日

(4) 取組の期間

令和6年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ⊙一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

①グローバルコース2年生のカナダ・ブロック大学への研修中止に伴う国内研修旅行の実施

②ニュージーランドへの短期研修中止

③ニュージーランドへの中期留学生派遣中止

④台湾研修中止

国内においてカリキュラム拠点校と連携校及び連携機関との協働による生徒への探究指導は実施することができたが、上記の海外における研修及び探究活動を実施することができなかった。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ⊙実施している
- ・実施していない

<特記事項>

カリキュラム開発拠点校ホームページ上において案内するとともに、保護者・生徒へメールやGoogle Classroomを用いて常時案内をしている。また、本校卒業生にメールにて情報を提供し、協力を仰いでいる。さらには、北海道における主要メディアである北海道新聞社に、当コンソーシアム支援事業のグローバルサマーキャンプや全国高校生FORUM入賞について掲載していただいた。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

拠点校の教育目標が、「21世紀社会のリーダーとなりうる国際感覚を備えた人材育成を図る」であり、「自立・共生の心を養う教育」と「生きるテーマを探究し、個性ある人間を育てる教育」を副目標としていることから、校内にとどまらない教育活動と学習活動との両立及び拡充が不可欠である。

北海道内外において、それぞれの地域特性や文化的特性があり、地域の抱える課題がある。教育の効果を考えて、これらの事象に対して、広範かつ綿密なネットワークを構築し、連携を深めながら教育を実践し、生徒への探究活動をサポートしていくことがより重要となると考える。

WWL コンソーシアム支援事業の指定をいただいたの1年を終了するが、ネットワークの充実と学習および探究活動の共有は大いに効果があり、より一層の充実に向けて努力を継続していく所存であることから、変わらぬご指導ご支援を賜りたいと切望している。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育法等によれば、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育および専門教育を施すのが高等学校教育である。この点を考慮すれば、多様な進路を考えるための教育、特色ある教育、教科横断的な教育、地球規模のグローバル課題を対象とする教育といった多方面からの教育アプローチの意義はますます多様化し、かつ深化すると考える。

教育法規の範疇において最大限の教育効果を生み出すべく、新たなリソースを積極的に導入し、学校間連携を充実させ、相互に学校の教育力、生徒の探究力を発展させていく所存であることから、変わらぬご指導ご支援を賜りたいと切望している。

5. 課題の改善のための取組の方向性

当コンソーシアムにおいては、現在の新型コロナウイルス感染症拡大防止という観点があり、これが教員や連携機関による教育活動、生徒の探究活動、ネットワークの発展に対して制約を与えたのも事実である。

「広大な北海道における ICT 活用によるネットワーク構築、教育活動と探究活動の進化」という観点では、オンライン講義やオンライン意見交換、オンライン交流といった形で意義ある活動を実施することはできたが、委託費のない状況での1年であったため、教員や生徒、連携機関との直接交流機会を設けることがほぼできなかった。広大な北海道であるからこそ未知の課題、手をつけていない探究題材も多く存在すると思われる。

こうした課題に積極的に取り組むには委託費に基づいて、当ネットワークにおけるすべての機関と人が等しく恩恵を受けて、探究活動に取り組む必要があり、ICT 活用と同時進行で、ヒトとヒトの往来、ダイレクトな FACE TO FACE の活動の拡充が必要である。

これまで以上のご指導ご支援を賜りたいと切望している。